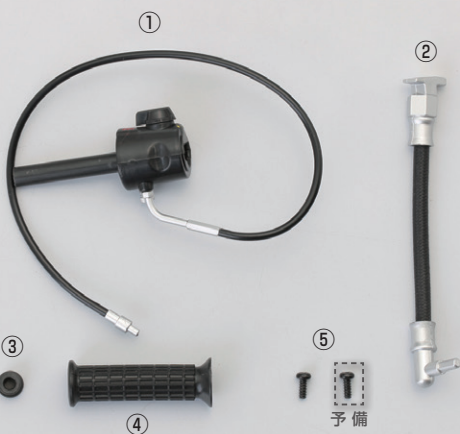


今号の作業

オイルホースを取り付け、 右グリップを組み立てる

今号では、67号で取り付けしたオイルタンクに「オイルホース」を組み込み、エンジン右側面下部に取り付ける。また、右グリップの組み立てを行い、69号で組み立てた左グリップと併せ、ハンドルバーへ取り付ける。オイルホースがスムーズに取り付けられるよう、事前にホースの形状を調整しておくことがポイントだ。

今号のパーツ



- ① 右グリップ×1
- ② オイルホース×1
- ③ グリップキャップ×1
- ④ グリップラバー×1
- ⑤ ビス(Gタイプ)×2
(※ 1本は予備)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ロングタイプドライバー

用意するもの

- ・メインフレーム(68号で組み立てたもの)
- ・左グリップ(69号で組み立てたもの)
- ・フロントフォーク(70号で組み立てたもの)



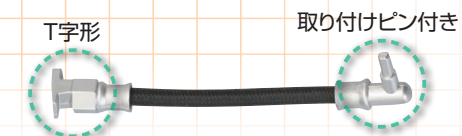
68号で組み立てたメインフレームを用意し、右側面に取り付けたオイルタンクカバーからエンブレムを取り外す。



1番の+(プラス)ドライバーを用意し、写真で示したビス穴にねじ込んだEタイプのビスを取り外す。



オイルタンクカバーをメインフレームから取り外す。



②オイルホースを用意し、両端に固定された樹脂パーツの形状を確認する。写真を参照しながら「取り付け状態の形状」に近づくよう曲げておく。このとき、両端に固定された樹脂パーツとホースが接続する部分に、無理な力が入らないよう注意すること。



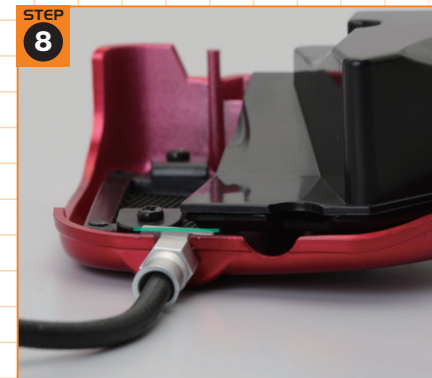
③で取り外したオイルタンクカバーを用意し、写真で示した“四角い切り欠き部分”に、オイルホース片側先端部分の“T字形樹脂パーツ”をセットする。上写真と⑦の写真を参照し、オイルホースの向き(④で曲げた向き)を間違えないよう注意しよう。



T字形樹脂パーツ部分を持ち、オイルタンクカバーの切り欠き部分にはめ込む。このとき、ホース部分を持つと外れてしまう恐れがあるので、樹脂パーツ部分を持つようにする。



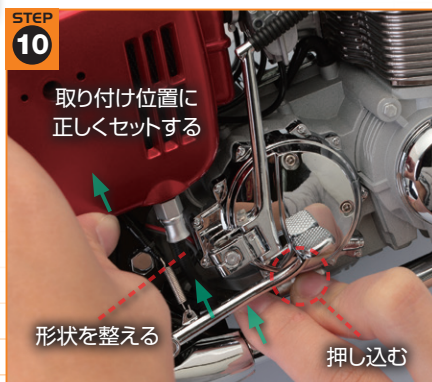
T字形の樹脂パーツをしっかりと押し、オイルタンクカバーにはめ込む。



オイルホースをはめ込んだ状態。オイルタンクカバーの縁と、T字形樹脂パーツが“ツライチ(出っ張りがなく、平らな状態になっていること)”になっていることを確認する。



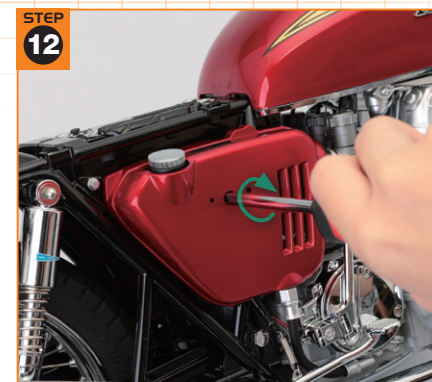
メインフレームの右側面が上になるようゆっくりと横倒しにする。ブレーキペダルを押し下げたまま、写真に示したオイルホース片側先端部分に設けられた樹脂パーツの取り付けピンを、クラッチカバーの真下にある“半円状の穴”にセットする。このとき、オイルタンクカバーも同時に取り付け位置へセットしよう。



樹脂パーツの取り付けピンを半円状の穴に押し込みながら、オイルタンクカバーが無理なく取り付け位置に戻るよう、ホースの形状を整える。



②で取り外したEタイプのビスを、元のビス穴にセットする。オイルタンクカバーから手を離しても、カバーがメインフレームに取り付けられた状態を維持できることを確認しよう。カバーが持ち上がってしまう場合はホースの曲げ具合が不十分なので、調整してからビスをセットし直そう。



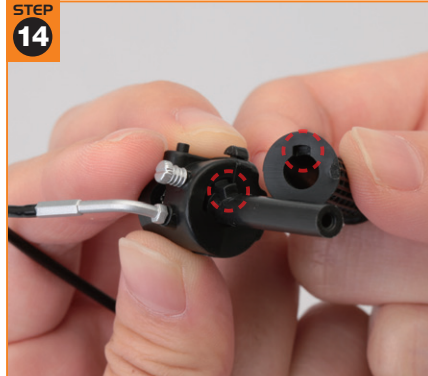
1番の+(プラス)ドライバーを使い、⑪でセットしたビスをねじ込んで、オイルタンクカバーをメインフレームに固定する。

STEP
13



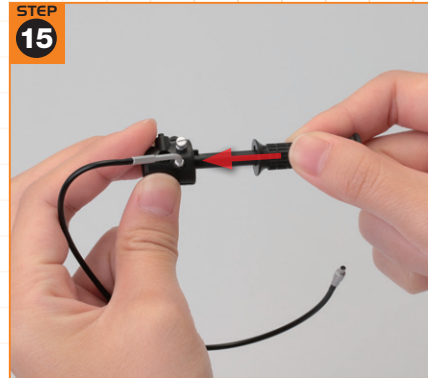
①で取り外したエンブレムを、元の位置にはめ込んでおく。

STEP
14



①右グリップと④グリップラバーを用意し、写真で示した部分の形状を確認する。グリップの軸の付け根部分には突起があり、ラバーの片端には突起をはめ込むくぼみがある。

STEP
15



右グリップの軸にグリップラバーを差し込む。このとき、軸の付け根の突起とグリップラバーのくぼみの位置を合わせてから差し込もう。

STEP
16



グリップラバーをしっかりと押し込み、軸の付け根の突起をくぼみにはめ込む。なお、右グリップは実車と同様に回せる構造になっている。可動範囲を確保するため軸が上下に多少動くが、組み立て上問題はない。

STEP
17



⑤ビス(Gタイプ)を用意し、グリップラバー端の穴にセットする。

STEP
18



ロングタイプドライバーを使い、Gタイプのビスをねじ込む。グリップラバーが回らないよう、しっかりと保持して作業しよう。

STEP
19



③グリップキャップを用意し、グリップラバー端の穴に写真の向きでセットする。

STEP
20



グリップキャップをしっかりと押し込み、グリップラバーにはめ込む。



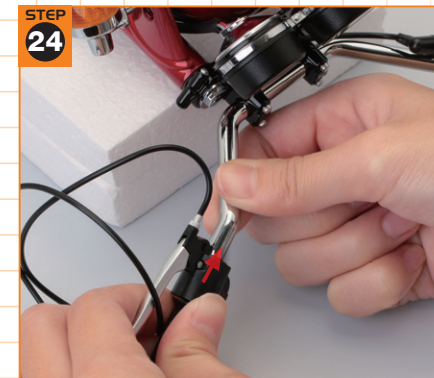
STEP 21
69号で組み立てた左グリップを用意する。取り出す際にケーブルが外れたりしないよう注意しよう。



STEP 22
70号で組み立てたフロントフォークを用意し、ハンドルバーの左断面と、左グリップ取り付け面の形状を確認する。



STEP 23
左グリップの取り付け面と、ハンドルバー左端の形状を合わせてセットする。



STEP 24
ハンドルバーをしっかりと保持し、左グリップを真っすぐに押し込む。

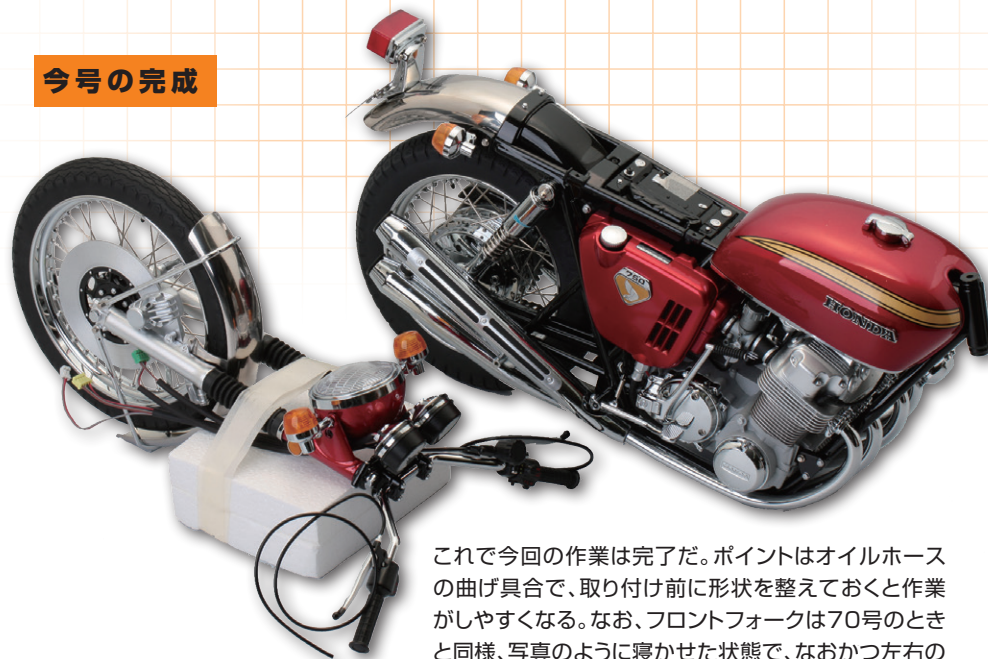


STEP 25
20で組み立てた右グリップの取り付け面と、ハンドルバー右端の形状を合わせてセットする。



STEP 26
ハンドルバーをしっかりと保持し、右グリップを真っすぐに押し込む。左右のグリップはハンドルバーに対して“差し込むだけ”の取り付けで、万が一モデルが転倒した際に簡単に外れるようになっている。外れることで左右グリップ自体への衝撃が軽減され、破損するのを防ぐ仕様だ。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。ポイントはオイルホースの曲げ具合で、取り付け前に形状を整えておくと作業がしやすくなる。なお、フロントフォークは70号のときと同様、写真のように寝かせた状態で、なおかつ左右のグリップが接地しないように保管しよう。